

消 息

北海道医史学研究会設立総会

平成五年七月二十四日、北海道医史学研究会が発足した。本道における医史学研究は昭和六十一年に「札幌医史学研究会」が設立され、研究家の交流が行われてきたが、例会を重ねるうちに全道的な組織に発展させようという気運が高まり、吉田信（道医会長・日医理事）・島田保久（札幌副会長）と札幌医史学研究会幹事等が中心となり、その準備が進められてきた。設立総会には五十三名（入会申込者六十二名）が出席した。ここで特筆すべきは、日本医史学会蒲原宏理事長の祝辞を頂いたこと（酒井シヅ先生代読）記念講演（歴史からみた患者と医療者）に酒井シヅ教授をお迎えできたことである。

北海道医史学研究会役員は左の通りである。

会長 吉田信 代表幹事 島田保久 幹事 上埜光紀・上田智夫・遠藤正之・笠井行雄・片岡是充・方波見康雄・高下泰三・多米豊・津田晴美・山岸喬・牧田憲太郎・長瀬清・藤田平治郎・沢田守・横田一郎 監事 浜本淳二・吉沢逸雄 相談役 犬山征夫・菊地浩吉・千葉峻三・中川昌一・並木正義・

本間行彦 顧問 小竹英夫・酒井シヅ・珠玖捨男・松木明知
 なお、十二月四日に北里研究所附属東洋医学総合研究所
 長・大塚恭男先生をお迎えして「古方派医学の伝統」という
 演題で学術講演会を開催することになっている。

（島田 保久）

「高松宮記念ハンセン病資料館」の開設

「高松宮記念ハンセン病資料館」（以下「資料館」）は、藤楓協会（ハンセン病救護事業団体、故高松宮殿下は初代総裁）の創立四十周年記念事業の一つとして開設された。



「資料館」に展示されている資料のすべては、ハンセン病をめぐる偏見と差別の具現として、患者自身が意味づけたが、療養所とは名ばかりの頃に、患者が患者を看取った不条理や、懲戒検束規定を悪用した非人道的な重監房拘禁などの無惨さが浮彫りされている。しかしこれほどの限界状況に置かれながら、絶望を超えて生み出された数多の芸術作品を前にして、見る人はその質の高さに多大な感銘を受けることであろう。

特定な疾患に対する偏見や差別は、今エイズについてうるさいが、「資料館」の存在はその警鐘として意義あるものと確信する。

（運営委員会・成田 稔）